

「第九」

音楽のある街 高崎



第九初演200年&日本人初演100年記念

高崎第九合唱団

第51回演奏会

2024

12/8

14:00開演(開場13:00)

(日) 高崎芸術劇場 大劇場

ベートーヴェン作曲 交響曲 第9番 二短調 作品125 「合唱付」

ヨハン・シュトラウスⅡ作曲 美しく青きドナウ

S席 / 6,000円

A席 / 5,000円

B席 / 4,000円



ソプラノ
鈴木玲奈



メゾ・ソプラノ
加藤のぞみ



テナー
江川靖志



バリトン
萩原潤



指揮
現田茂夫

管弦楽：群馬交響楽団

合唱：高崎第九合唱団

合唱指導：赤羽洋子 / 清田和泉 / 岸裕之

■ チケット取り扱い

【Web】10/9～ <http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/> 芸術劇場メンバーズ限定

【電話】10/10～ 高崎芸術劇場チケットセンター 027-321-3900

【窓口】10/10～ 高崎芸術劇場2Fチケットカウンター ほか 10/10～ 高崎市施設プレイガイド9か所窓口

■ 未就学児のご入場はお断りいたします。 ■ 出演者への花束・贈り物などは辞退させていただきます。

■ お問い合わせ 高崎第九合唱団 070-4455-2190・080-2563-5611 (9時～18時)



高崎第九合唱団
ホームページ

主催：NPO 法人高崎第九合唱団 共催：高崎芸術劇場（公益財団法人 高崎財団）

後援：高崎市 / 高崎市教育委員会 / 群馬テレビ / 上毛新聞 / 群馬よみうり / FM GUNMA / ラジオ高崎 / 高崎市民音楽連盟

1974年創立、2006年NPO法人化、ベートーヴェン第九交響曲を群馬交響楽団と共に群馬音楽センターの舞台で演奏してきた。1989年当時西ドイツのハイデルベルグ市において日本の第九合唱団初となる海外公演を行い、全国的な注目を浴びる。以後EU各国においてこれまで10回公演。2008年音楽による平和活動と国際交流活動が評価され、群馬県国際交流賞を受賞。国内では年末の「高崎の第九」演奏会のほか5月には「メイコンサート」を開催しオペラや各国の歌を披露している。団員は年齢も様々であるが、ベートーヴェンの音楽を愛し「第九」の人類愛の精神を歌い、音楽による平和と国際文化交流を目指すことを共通の理念として活動を続けている。2019年9月には高崎芸術劇場開館記念演奏会(こけら落とし公演)に出演。2020年には、コロナ禍で開催できた「第九」として全国から注目と称賛を集めた。その後も立ち止まることなく演奏活動を継続し、昨年は創立50周年を迎え、記念事業として11月に「ウィーン楽友協会・黄金の間で第九演奏会」、また、暮れの第九演奏会を2日間連続で開催した。いずれの演奏会も挑戦的な試みではあったが、「音楽のある街・高崎」の市民合唱団として、力強いパフォーマンスを通して世界の人々と繋がり、世界の平和を願う活動が出来たと考える。次の半世紀を歌い継ぐ最初の年となる今年では更なる役割や使命を感じながら、厳しい環境下にある人類の希望の光となる一歩を踏み出す決意をしている。



第50回演奏会「創立50周年記念」2023.12.10



ウィーン楽友協会・黄金の間で第九演奏会 八木節を始め日本の曲も披露 2023.11.12

日本人初演

日本人による「第九」初演は、1924(大正13)年11月29日(土)に行われ、翌30日(日)も行われた。

演奏会場は、上野にあった東京音楽学校の座席数388の奏楽堂、指揮グスタフ・クロン、ソプラノ長坂好子、アルト曾我部静子、テノール船橋栄吉、バリトン沢崎定之、東京音楽学校のオーケストラと学生全員による合唱である。「ベートーヴェンの傑作「第九シンフォニー」及び合唱」はわが国最初の快挙」という触込みに、わずかな切符は完売し、この素晴らしい音楽熱に動かされた。「第九」を初めて聞いた人々のその音楽熱は数々の逸話となって後世に伝えられている。



国内最大級の舞台面積と間口の広さをもつ大劇場のほか様々なスペースと機能を持ち、国際的な演奏会にも対応する音楽と舞台芸術の殿堂。「創造と発信。進化と継承」のコンセプトのもと新しい都市文化を創造・発信する。

高崎芸術劇場 〒370-0841 群馬県高崎市栄町 9-1
TEL.027-321-7300

※高崎芸術劇場に専用駐車場及び提携駐車場はありません。周辺駐車場については高崎芸術劇場HPをご覧ください。

駐車場のご案内